

第 6 章 歯科口腔保健推進計画

第6章 歯科口腔保健推進計画

1 趣旨

歯と口の健康づくりを通じて生涯自分の歯で食べて味わい、元気で生き生きとした人生を送ることができるよう、3つの基本方針に基づいて、歯科口腔保健に関する施策を総合的かつ計画的に推進することを目的とします。

2 基本方針

基本方針1 歯科口腔保健推進のための啓発

歯と口の健康が全身の健康の保持・増進につながることを理解し、歯科疾患の早期発見・早期治療を促すために、乳幼児期から高齢期まで各ライフステージに応じた歯科保健教育が必要です。市民が歯と口の健康づくりに関する知識を習得し、健康意識の醸成が図れるよう支援します。

基本方針2 歯科疾患の予防と口腔機能の維持・向上

生涯にわたり自分の歯で食べ、楽しく話すことは健康寿命の延伸につながります。そのためには、個人が自ら口腔の健康管理（セルフケア）に取り組むとともに、定期的に歯科健診を受けることが重要です。市民が毎日のセルフケアを実践し、身近に相談できるかかりつけ歯科医を持つなど、歯と口の健康づくりが継続できるよう支援します。

基本方針3 地域における歯科口腔保健推進のための環境整備

歯科口腔保健に関する施策を総合的に推進していくために、地域の保健、医療、福祉、その他の関係機関が連携し、社会環境を整備することが必要です。障害者や要介護者などが在宅及び施設においても歯科保健医療が提供される体制や災害時における対策の推進を図るため、歯科口腔保健推進事業拠点の支援を行います。

3 現状と課題

以下には、アンケート調査結果などの分析から得られた市民の健康に関する現状と課題を基本方針ごとに示します。

基本方針 1 歯科口腔保健推進のための啓発

図 6-1 定期的な歯科健診と歯周病及び全身疾患との関係の認知（問 38 と問 41 のクロス集計）

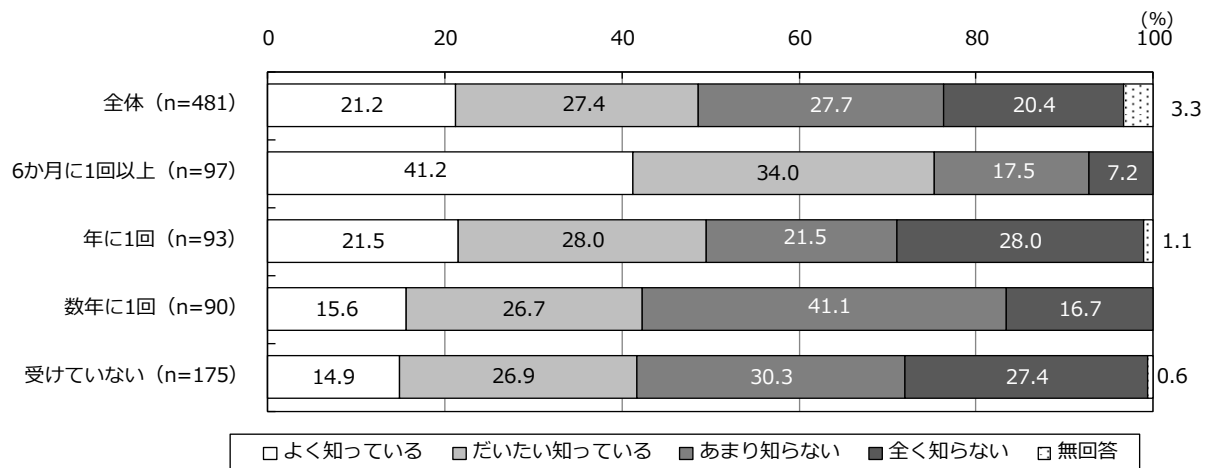
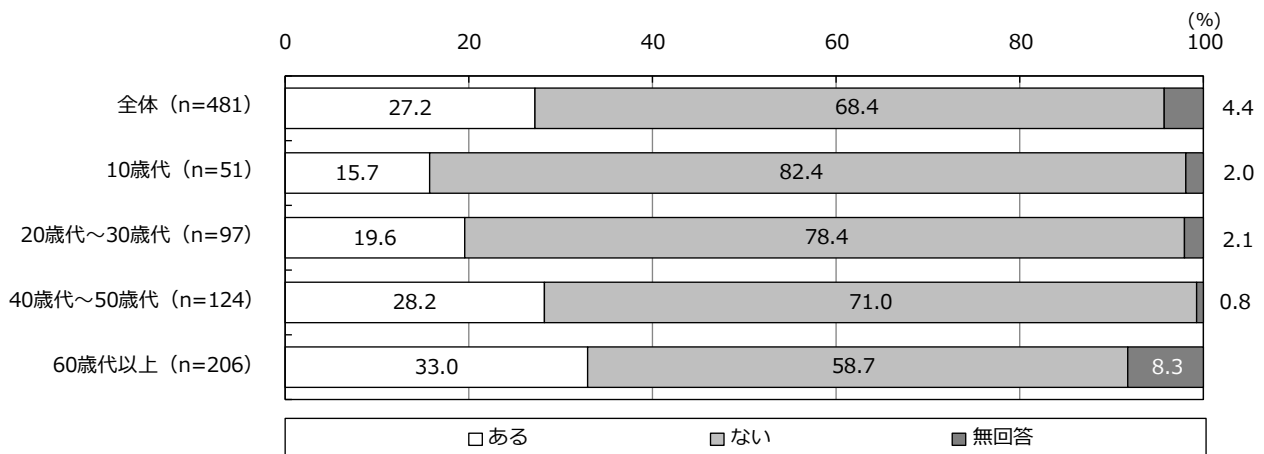


図 6-2 歯周病を指摘されたことの有無（問 40 の年代別集計）



【現状】

○歯周病が身体の病気に影響してことを知っている人ほど、定期的に歯科健診を受けています。(図 6-1)

○歯周病を指摘されたことがあるかについて、男女差は見られませんでした。年齢が上がるにつれて、指摘されたことがある人が増加しています。(図 6-2)

【課題】

○歯と口の健康は、食べ物をよく噛んでおいしく食べるために大切であると同時に、全身の健康にも大きく影響を与えます。口腔機能の保持・増進が、健康で質の高い生活を送る上で重要な役割を果たすことから、歯と口の健康に関する正しい知識を身に付けられるように市民への啓発が必要です。

基本方針 2 歯科疾患の予防と口腔機能の維持・向上

図 6-3 定期的に歯科健診を受けているか（問 38 の性別・年代別集計）

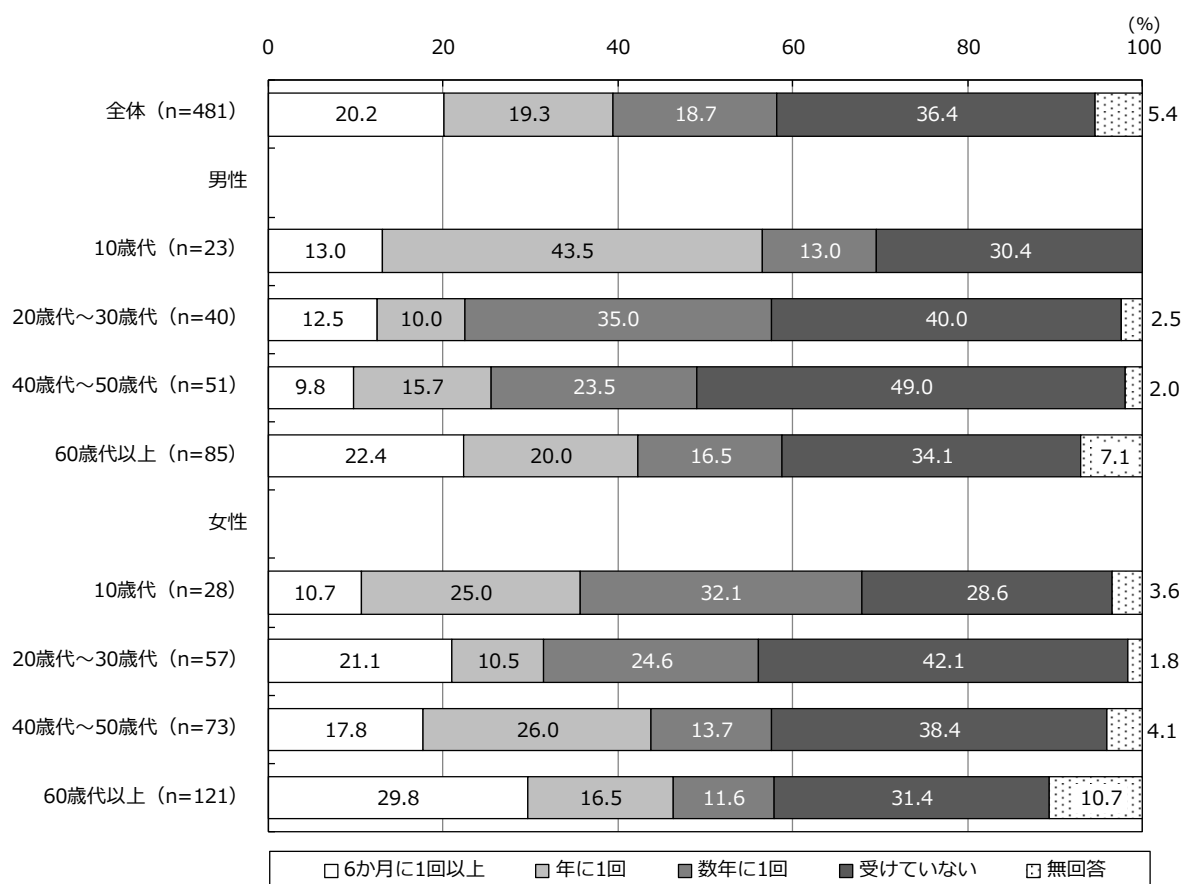


図 6-4 定期的な歯科健診と歯科清掃補助具の使用頻度（問 38 と問 39 のクロス集計）

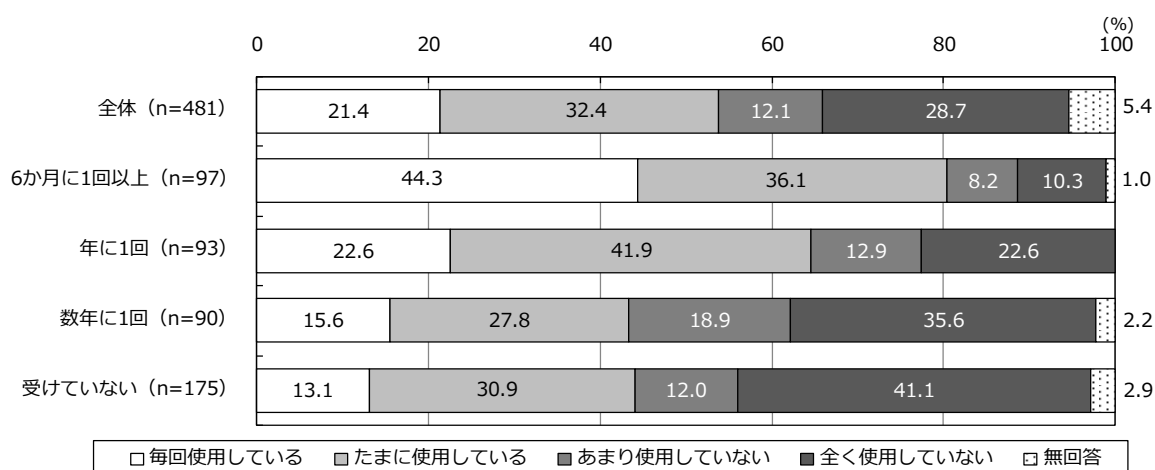
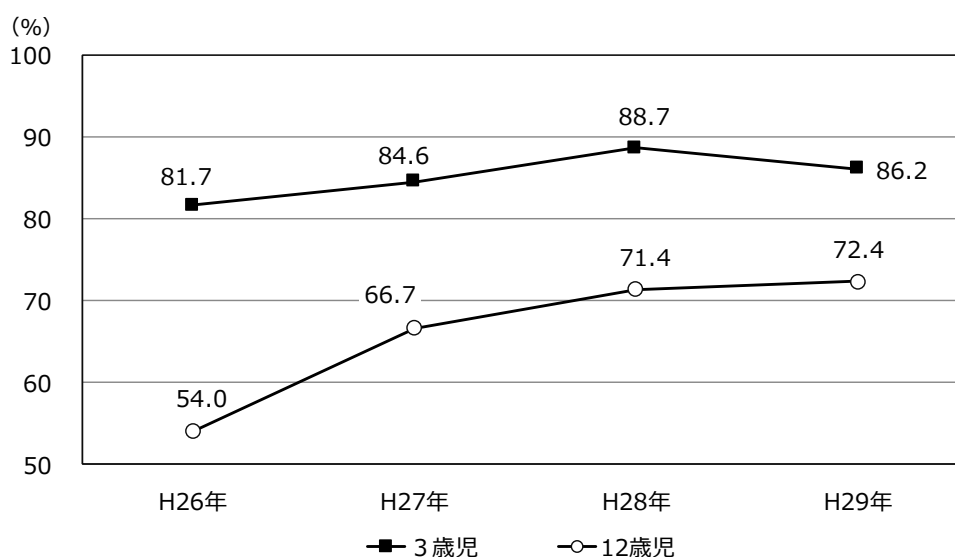
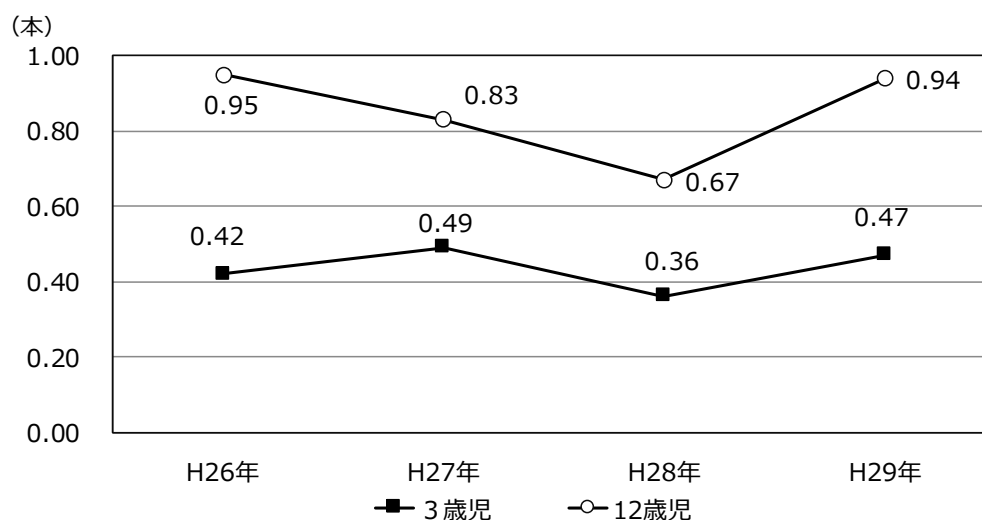


図 6-5 むし歯のない子どもの割合（3歳児、12歳児）の推移



資料：坂戸市 3 歳児歯科健診結果、12 歳児（学校歯科保健状況調査票）

図 6-6 平均むし歯数の推移



資料：坂戸市 3 歳児歯科健診結果、12 歳児（学校歯科保健状況調査票）

表 6-1 進行した歯周病（4 mm 以上の歯周ポケット※）のある市民

	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳代	合計
男性	9 人	11 人	13 人	26 人	59 人 (20.9%)
女性	18 人	25 人	17 人	40 人	100 人 (35.5%)

資料：H29 年度成人歯科健康診査結果

※歯と歯ぐきの境目にある溝のことです。歯周病が進行するとポケットが深くなり、汚れや細菌が侵入します。

【現状】

- 定期的に歯科健診を受けていない人の割合は、男性では 40 歳代～50 歳代が、女性では 20 歳代～30 歳代が高くなっています。（図 6-3）
- 定期的な歯科健診の受診と、歯科清掃補助具の使用との相関関係は、補助具を毎回使用している人ほど健診の頻度が多くなっています。（図 6-4）
- むし歯のない子どもの割合は増加傾向にあります。特に、12 歳児は平成 26 年から平成 29 年までに約 20 ポイント増加していますが、平均むし歯数は増減を繰り返しています。（図 6-5）（図 6-6）
- 進行した歯周病がある人の割合は男性より女性の方が高くなっています。（表 6-1）

【課題】

- 歯と口の健康づくりには、日々の自己点検に加えて定期的な歯科健診が重要です。歯科健診を受けていない人は、全体の約 3 割となっていることや、進行した歯周病を持っている人の割合は、男性で約 2 割、女性で約 3 割となっています。市民に向けた歯科疾患の予防の普及・啓発が必要です。

基本方針 3 地域における歯科口腔保健推進のための環境整備

表 6-2 歯科医師・歯科衛生士などの専門職との口腔ケアの連携の有無（問 5）

項目	度数	構成比
取っている	14	70.0%
取っていない	4	20.0%
無回答	2	10.0%
合計	20	100.0%

資料：高齢者・障害者福祉施設における口腔ケアに関するアンケート調査結果※

※本市の歯科口腔保健施策の基礎資料とするため、平成 30 年 9 月に市内高齢者施設及び障害者施設 21 施設においてアンケート調査を実施しました。（アンケート調査票は資料編（P98・99）を参照ください。）

表 6-3 専門職との連携の頻度（問 6）

項目	度数	構成比
不定期	1	7.1%
月 1 回	2	14.3%
月 2 回	4	28.6%
週 1 回	5	35.7%
週 4 回	1	7.1%
その他	1	7.1%
無回答	0	0.0%
回答者数	14	100.0%
非該当	6	
合計	20	

資料：高齢者・障害者福祉施設における口腔ケアに関するアンケート調査結果

【現状】

○福祉施設における口腔ケアの実施に関し、約 7 割の施設が歯科医師・歯科衛生士などの専門職と連携を取っています。（表 6-2）

○連携の頻度は週 1 回から月 2 回程度が多くなっています。（表 6-3）

【課題】

○歯科受診が困難な高齢者や障害者に対して、適切な口腔ケアができるよう施設をはじめとして地域全体で支えていけるような体制づくりが必要です。

4 行動目標と取組

以下には、基本方針に基づき、市民自らが取り組むことを行動目標として定めています。

行政・地域・関係機関は、市民の行動目標を達成するための支援（取組）を推進していきます。

基本方針 1 歯科口腔保健推進のための啓発

行動目標 1 歯と口の健康に関する正しい知識を身に付けます

歯と口の健康が全身の健康に影響することから、歯と口の健康づくりに関心を持ち、それぞれのライフステージごとに正しい知識を身に付けましょう。

【指標・目標値】

指 標	H30（2018）年度 現状値	H35（2023）年度 目標値	参考値
歯周病と全身疾患との関係を認知している市民（20歳以上）	48.6% H30（2018）年度 アンケート調査結果	60.0%	
歯や歯ぐきについて気になることがない市民（20歳以上）	36.5% H30（2018）年度 アンケート調査結果	増加	

【行政・地域・関係機関の取組】

- 成人歯科保健講話の開催
- 歯と口の健康フェアの支援
- 8020※よい歯のコンクールの支援

※「80歳になっても自分の歯を20本以上残そう」という厚生労働省のスローガンのもとに展開している運動のことをいいます。

コラム

歯周病と全身疾患との関係



歯と歯ぐきの境目に歯垢（プラーク）がたまり、歯ぐきの炎症が進むと歯周病菌が体の中に侵入しやすくなります。侵入した歯周病菌は、血流に乗って様々な組織に届き、がん、心疾患、脳血管疾患、糖尿病などの生活習慣病や全身疾患に悪い影響を与えます。

特に、糖尿病と歯周病の両方を持っていると症状が悪化しやすいと言われています。

基本方針 2 歯科疾患の予防と口腔機能の維持・向上

行動目標 2 歯と口のケアに自ら取り組みます

歯と口の健康を維持するためには、自分自身で健康管理（セルフケア）することが必要です。個々に適した方法を学び、実施していきましょう。

行動目標 3 定期的に歯科健診を受診します

歯科疾患の早期発見・早期治療には、セルフケアとともに定期的な歯科健診が重要です。自身での点検に加えて、歯科医院で専門的な点検を受ける習慣を身に付けましょう。

行動目標 4 かかりつけ歯科医を持ちます

歯と口の健康づくりにおいて、身近に相談できるかかりつけ歯科医を持つことが大切です。乳幼児期から高齢期まで、生涯を通じた歯と口の健康づくりの相談役として、かかりつけ歯科医を持ちましょう。

【指標・目標値】

指 標	H30 (2018) 年度 現状値	H35 (2023) 年度 目標値	参考値
年 1 回以上歯科健診を受けている市民 (20 歳以上)	38.4% H30 (2018) 年度 アンケート調査結果	50.0%	65.0% (過去 1 年の歯科健診受診者:第 2 次健康日本 21 目標値 - 2022 年度)
むし歯のない 3 歳児	86.2% H29 年度坂戸市 3 歳児歯科健診結果	90.0 %	90.8% (むし歯のない 3 歳児・埼玉県 科口腔保健推進計画 (第 3 次 目標値 - 2023 年度)
むし歯のない 12 歳児	72.4% H29 年度坂戸市学校歯 科保健状況調査票	78.0 %	78.1% (むし歯のない 12 歳児:埼玉県 歯科口腔保健推進計画 (第 3 次 目標値 - 2023 年度)
進行した歯周病 (4 mm 以上の歯周ポケット) のない市民	43.6% H29 年度成人歯科健康 診査結果	50.0%	45.0% (60 歳代で進行した歯周炎を有する者:第 2 次健康日本 21 目標値 - 2022 年度)
補助具を使って歯をケアしている市民	53.8% H30 (2018) 年度 アンケート調査結果	60.0%	

は重点目標

【行政・地域・関係機関の取組】

- パパママ教室における歯科健診及び歯科保健指導の実施
- 乳幼児健診における歯科健診及び歯科保健指導の実施
- 保育園児のための歯科保健指導の実施
- 学校歯科健診及び歯科保健指導の実施
- 成人歯科健康診査の実施
- 介護予防事業における歯科保健指導の実施

基本方針 3 地域における歯科口腔保健推進のための環境整備

介護を要する方や障害を持つ方は、定期的な歯科健診の受診機会が損なわれやすく、一般的に歯や口の健康状態が悪化しやすい傾向が見られます。肺炎やオーラルフレイル※を予防し、健康寿命を延ばすために、在宅歯科医療の充実を推進し、訪問診療拠点の支援を行います。

また、大規模災害が発生した際には、本市と歯科医師会などが連携し、歯科口腔保健に関する支援体制を整えます。

※身体の衰えと深く関りのある口の衰えのことで、滑舌の低下、食べこぼし、わずかなむせ、噛めないものが増えるなど、口腔機能の低下がみられます。

【指標・目標値】

指 標	H30（2018）年度 現状値※	H35（2023）年度 目標値	参考値
在宅歯科医療を実施する市内の登録 機関数	15 か所	18 か所	

※県歯科医師会資料

【行政・地域・関係機関の取組】

- 坂戸市・鶴ヶ島市地域包括ケアシステム推進協議会会議の開催
- 在宅医療相談室における在宅歯科医療機関の紹介
- 歯科医師会が整備する訪問診療及び災害時の活動拠点への支援